

施工の現場から 産業用太陽光発電O&M

エネルギービジョン

代表取締役
奥山 恭之

第55回

遠隔監視データ自体の信頼性確認も重要

計測機器類の不具合が疑われる「事例」

気を付けたい「センサーはじめ

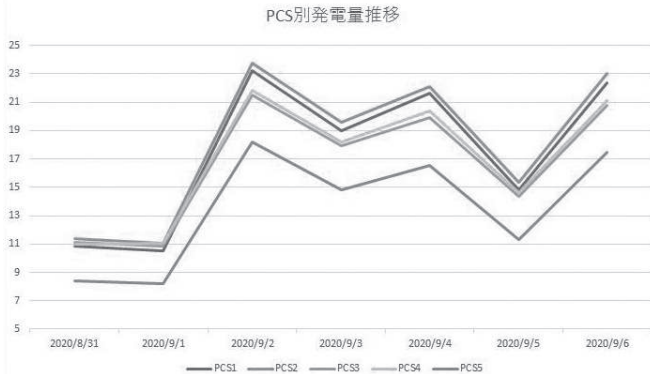
総合・太陽光

先日、ある発電事業者から「遠隔監視データがPCS5台にばらつきがある。データ解析をして原因を推定してほしい」と相談を受けた。

その発電所の状況を説明すると、北海道の平地に設置したPCS5台のうち、1台の発電量が他の4台と比べて低いことが確認された。

発電所の状況を確認すると、北海道の平地に設置したPCS5台のうち、1台の発電量が他の4台と比べて低いことが確認された。

PCSごとの発電量にばらつきがあり、その原因を探ってみると...



まず、いつからばらつきが始めたのか、年ごとの発電量を確認した。

PCS5番はパネル枚数が少ないので厳密な計算ではないが、発電初年度から現在まで同じ傾向を示している。

PCS1、2番が良く、3、4番がそれより10%程度低い。

発電所の年間売電金額が仮に200万円だとすると、PCS5台で単純に割ると1台あたり40万円、その2台が10%低いとすると年間8万円程度の売電ロスとなる。

CTセンサーの故障が取り付け不良か？ 遠隔監視メーカーと交渉して、まずはCTセンサーを交換することとなった。

20年間続いたから160万円の損失だ。PCS5番はパネル枚数が少ないので厳密な計算ではないが、発電初年度から現在まで同じ傾向を示している。そのためもある程度の誤差が出ることは仕方ないが、10%も誤差があったら、遠隔監視の意味がない。

同時に遠隔監視データを確認したところ、やはり以前同様のばらつきを示していた。すると、遠隔監視データ自体の信頼性の確認が必要かもしれない。

積極的な活用を推奨しているが、データ自体の信頼性の確認が必要な場合もあることは忘れないうにしたい。